

◆生産者会議

平成22年度魚介藻類養殖生産者会議

水産業改良普及センター本部駐在 中村勇次

1. 目的

県内魚介藻類養殖生産者の養殖技術向上と関係者の連携強化及び情報交換を目的として講習会を開催する。前年度までは「魚類・介類養殖生産者会議」であったが、今年度からは藻類養殖生産者も対象とした「魚介藻類養殖生産者会議」として開催することになった。

2. 日時及び場所

平成23年3月11日(金)
沖縄市産業交流センター会議室

3. 結果

生産者会議の講演内容は、県水産業改良普及センター平安名主任技師から「ヤイトハタ水無し輸送について」、県水産海洋研究センター知名真智子研究員から「やせ病に対する対策について」、県海洋深層水研究所城間一仁研究員から「海洋深層水研究所で行った海ぶどう養殖試験について」、栽培漁業センター佐多忠夫主任研究員から「種苗生産に関する情報提供」、その他情報提供として普及センター本部駐在中村主任技師から「漁業収入安定対策について」がそれぞれ報告された。

「ヤイトハタ水無し輸送事業」では、沖縄県漁業振興基金の技術研究開発事業(約180万円)を活用して、身質の均一化、水無し輸送技術の確立、輸送実証試験、販路拡大等の取り組みを実施した。また、ヤイトハタ生産者懇談会も3回開催し、絞め方の講習会、輸送試験についての情報提供、魚価算出方法、販促イベント開催等について情報提供及び意見交換を行った。懇談会では、技術開発事業で作成した水無し輸送用の発泡スチロール容

器を使った活魚処理実習も行われた。また、事業の波及効果として、平成23年度水無し活魚ミーバイ市場創出事業の立ち上げ、泊魚市場内ストックヤード設置実証試験の開始、県外市場との商談の呼び水として事業を展開していきたいとのことであった。

続いて「やせ病に対する対策について」で、県内の陸上養殖施設で発生した粘液胞子虫による「やせ病」について加温による治療法の紹介があった。ただし、緑肝(肝臓が緑色になる症状)が回復しない可能性が示唆された。現在まで海面で同病気は発生していないが、様々な魚に感染することが確認されており海面で発生しないとの保障はないので対策については十分な知識を持つておくべきとのことであった。

「海洋深層水研究所で行った海ぶどう養殖試験について」では、海洋深層水研究所でこれまでに実施された海ぶどうの養殖条件(水温、流速など)に関する試験結果や、人工的に作成した専用肥料に関する情報提供が行われた。

「種苗生産に関する情報提供」では、栽培漁業センター担当者より、今後の種苗配布スケジュール等について報告された。

最後に、その他情報提供で「漁業収入安定対策について」が資料に沿って説明された。説明途中に東日本大震災が発生し、会場である沖縄市産業交流センターは海に近く津波発生への恐れがあったことから急遽生産者会議を終了して解散となった。

出席者は、漁業者18名、漁協市町村職員14名、その他7名の合計39名であった。

4. 考察

偶然にも東日本大震災の発生により会議が途中終了となり、最後に予定されていた質疑応答の時間が取れなかった。

今後とも、魚類、介類、藻類を総括した生産者協議会として引き続き情報提供の場として会議を継続していく必要がある。



生産者会議の様子



生産者会議には多くの参加があった



ヤイトハタ水無し輸送事業を報告した
普及センター平安名主任技師



やせ病に対する対策について報告した
水産海洋研究センター知名研究員